

域には本学の健康増進に貢献する人材育成もめざします。阿蘇地

みを模索していきま。各種計測やデータ分析

延、同市内の高齢者を対象に定期的な体力測定

後、本市内の高齢者を対象に定期的な体力測定

本学と阿蘇市、阿蘇中央高校が、健康寿命の

阿蘇市、阿蘇中央高と

阿蘇市、阿蘇中央高と



締結後、記念撮影する右から生徒代表の嶋田聖也さん、木下理事長、佐藤市長、酒井校長、生徒代表の松田早生さん

健康寿命の延伸に向け連携協定

本学が自治体、高校と同時に包括連携協定を結ぶのは初めてです。高校側から本学に連携の申し出があり、阿蘇市、阿蘇中央高校、本学との間で昨年7月から協議を続けてまいりました。

締結式は16日（木）、阿蘇市の一の宮保健センターであり、本学からは木下統晴理事長、竹屋元裕学長、檜原真二副学長ら8人が出席しました。佐藤義興市長、木下理事長、酒井一匡校長が「3者が連携しての健康寿命延伸へのチャレンジは有意義な取り組み。学生や生徒の学びの場、人材育成の場としても期待します」などとあいさつし、協定書に調印しました。

調印に先立ち、プロジェクトリーダーとなる松原慶吾准教授（リハビリテーション学科言語聴覚学専攻）が「阿蘇プロジェクト」（仮称）と名付けた取り組みの意義と概要を説明しました。令和5年度は6月に学生と高校生が協力し、高齢者50人程度に対する健康チェックや体力測定を行います。11月と来年3月には、分析結果を基に運動・食事・社会参加の観点から良好な生活習慣を支援し、地域の皆さんの健康、幸せづくりに取り組みます。

令和4年10月現在、阿蘇市の総人口に占める65歳以上の割合は39.5%で、熊本県全体（32.1%）を7.4ポイント上回っています。

当日は本プロジェクトの成功を確信する快晴となり、世界に誇る阿蘇の自然の中での素晴らしい協定締結となりました。（NL編集部）

地域支える人材育成にも期待



協定書に署名する右から木下理事長、佐藤阿蘇市長、酒井阿蘇中央高校校長

コメント

◇ 佐藤市長 高齢化が進む中で、協定を健康寿命の延伸につなげたい。地元高校生の参画によりさらなる人材育成にも期待。（3者が）一致団結し安心できる社会をつくっていきます。

◇ 木下理事長 これからの未来を担う若い人たちの参加が取り組みのポイント。今回の連携協定は他に類を見ない画期的な取り組みでもあります。連携を強くして成功に導いていきます。

◇ 酒井校長 地域の課題である高齢者問題だけでなく子どもたちの健康増進にもつなげたい。生徒たちが学びを通じ、地元阿蘇の健康増進に貢献する人材となることを祈念して取り組みます。

頑張ってます！

OB・OG訪問



医学検査学科4期生の橋倉悠輝さん(35)は現在、宮崎大学医学部附属病院に臨床検査技師として勤務しています。昨年4月には検査部の副技師長に就任。30代で同病院検査部の副技師長になるのは大変まれなケースだということです。榎原真二副学長・教授のスマールグループ出身で、卒業後は勤務の傍ら宮崎大学医学部で修士と博士の学位を取得。橋倉さんが後輩に向けメッセージを寄せてくれました。

宮崎大附属病院検査部で副技師長として活躍

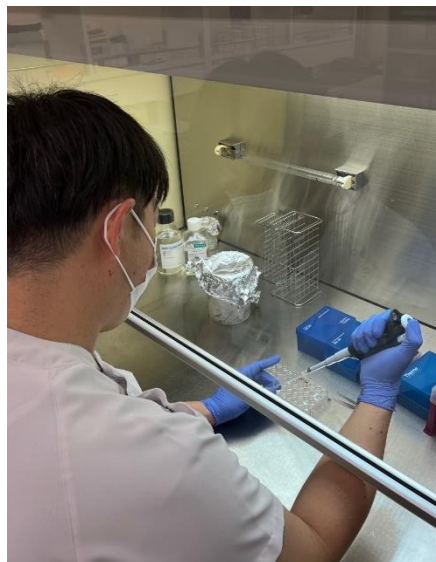
橋倉 悠輝さん(35) = 2010年医学検査学科卒

私は2010年に熊本保健科学大学を卒業し、現在は宮崎大学医学部附属病院に勤めています。主な仕事内容としては、遺伝子関連検査を軸に、血液および血清検査を担当しています。また、大学は教育・研究機関でもあるため、業務で得た知識は学生実習などの教育現場で活用し、疑問点は研究などを通して解決するよう日々努めています。近年では検査の精度保証や品質確保の重要性が求められており、検査の品質管理も行っています。仕事をする上で、物事をリスクベースで考え、最善のアプローチを提案できるよう心がけています。それが結果として患者の病気の発見や治療、あるいは社会貢献につながればと思います。

医学をはじめ科学技術は日々進歩しています。裏を返すとまだまだ明らかとなっていないことがあるということです。このため、あらゆる可能性を否定せず、考えることの楽し

考える楽しさ大切にして

さを大切にしてもらえればと思います。これから検査技師を目指す学生のみなさんに今回の内容が少しでもお役に立てれば光栄です。



遺伝子検査をする橋倉さん

BLS (Basic Life Support) 部

熊本城マラソン AED持ちランナー見守る

19日(日)に行われた「熊本城マラソン2023」にボランティアで参加したBLS (Basic Life Support) 部の杉本薫さん(看護学科2年)に当日の活動の様子を報告してもらいました。



2月19日(日)に「熊本城マラソン2023」が開催され、医療ボランティア「AED隊」にBLS部の部員7人で参加しました。当日はモバイルAED隊に配属され、同じ班のBLSインストラクター等の資格を持つ様々な医療従事者や医療系学部の学生たちとAEDを持ってコース内を自転車で回り、各班と無線で情報共有をしながらランナーを見守りました。

悪天候の中、自転車でコースを回るのは大変でしたが、先頭集団から最後尾の方まで色々な方が一生懸命走る姿に感動し、元気を貰いました。また、BLSインストラクターの方々と色々お話できたことは貴重な経験となり、大きな学びとなりました。

BLS〈Act〉部はBLS(1次救命処置)の技術習得及び普及を目的に週に1度活動しています。これからも質の高い胸骨圧迫等ができるように技術を高め、様々なイベントで参加者が安全に活動できるようサポートしていきたいと思っています。

(杉本薫 = 看護学科2年)



ランナーを見守りながらコースを回るBLS部員(右)

現在、テニスコート横にある動物舎の改修工事が進んでいます。動物舎では、研究や実習に使用するマウスやラットなどの実験動物を飼育しています。動物愛護の観点からも、清潔な環境で飼育しなければなりません。ニワトリの飼育では、高病原性鳥インフルエンザなどの感染症が話題となっていますが、本学の動物舎でも、細菌やウイルス、寄生虫などの感染防止に努めています。

スーパー等でたまに「SPF」と書かれた豚肉を見かけることがあります。SPF(Specific-pathogen-free)とは、動物の健康に影響するような特定の病原生物が存在していない、つまりクリーンな状態であることを意味しています。実験動物もこのような状態（SPF）で飼育することが求められています。

しかし、本学の動物舎は老朽化のため天井から盛大に雨漏りをして、カビだらけになっていました。そこで、昨年11月から改修工事を行っています。カビだらけの天井を全面的に張り替えるとともに、トイレや倉庫として使用していたスペース

も合わせて拡張しています。新動物舎は、高度な移植・感染実験等も実施可能な設計で、3月末に完成予定です。感染防止の観点から皆様に内覧をして頂く訳にはいきませんが、外観も立派になっていると思いますので、機会があればご覧になって下さい。（動物実験委員長・田中聡）



着々と改修工事が進む動物舎

銀杏アラカルト

◆看護学科キャリア教育セミナー 8日(水)、9日(木)の両日、2・3年生を対象としたキャリア教育セミナーを開催しました。各施設の情報収集を通じて、学生自身の職業適性やキャリアについて考える機会にすることを目的としています。今年度もZoomを用いたオンライン形式で行い、九州内外から計79施設に参加いただきました。画面上ではありましたが、学生と施設の方との活発な質疑応答が見られました。また、施設で働く本学卒業生からの説明もあり、学生は医療現場で活躍する先輩から大きな刺激を受けたようです。3年生はいよいよ就職活動が始まります。今回のセミナーをきっかけとして、積極的に説明会やインターンシップに参加し、定めた第一志望施設の内定獲得に向けて主体的に取り組んでほしいです。

(就職・実習支援課)

◆医学検査学科・看護学科就勝ガイダンス 6日(月)、7日(火)に看護学科3年生、13日(月)～15日(水)に医学検査学科3年生を対象とした就勝ガイダンスを行いました。就職活動に対する意識向上と就職についての知識習得が目的。3年ぶりに対面形式で実施し、スーツ姿の就活生が緊張感をもって一堂に集いました。履歴書の書き方や面接対策講座のほか、医学検査学科では榎原副学長が講話を行いました。また、病院・企業など全12職種の紹介では、臨床検査技師の資格を活かした働き方に触れることができ、参加した学生から「視野が広がった」との声が聞かれました。就勝ガイダンスでの学びを活かしながら、就職活動を“いま、この瞬間から始め”成功することを期待しています。

(就職・実習支援課)



春の足音

今週の1枚

レストラン前の梅の木に花が咲き始めました。紅梅、白梅ともに3分咲き程度でしょうか。その凛とした佇まいから春の足音が聞こえてきそうです。外出時にはまだコートが手放せない日が続きますが、ちょっと外へ出て、春の訪れを感じてみてはいかがでしょうか。

(入試・広報課)

週間行事予定（2月25日～3月3日）	
2 / 25（土）	大学院一般選抜・社会人選抜（Ⅱ期）
3 / 2（木）	防災・消防訓練
3 / 3（金）	共通テスト利用選抜（後期日程）